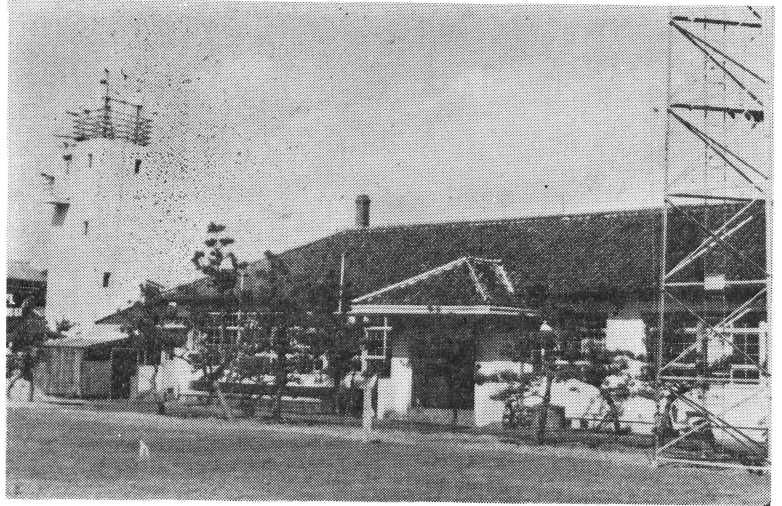


地方だより

小名浜測候所



小名浜測候所

創立満50周年の記念を終えて早や3年、各種の観測資料もぼう大になりました。

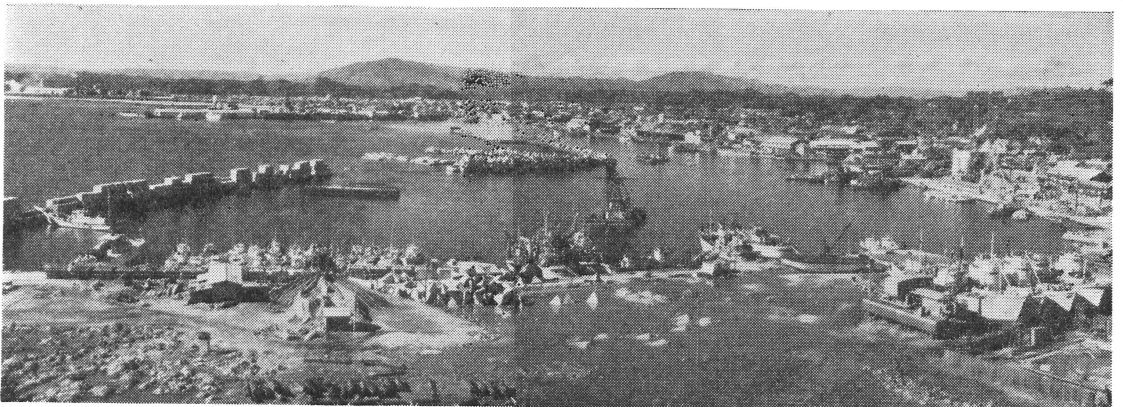
当地小名浜は昭和29年3月、近郷3町3村を合併して磐城市と名称が変わり、あまり小名浜の名が出なくなりましたが、当所は小名浜測候所として、かつての町全体を代表しているかの如き感あり、ラジオの気象概況で津々浦々にその名を印象づけているようです。当所は毎時観測を行っており、第一次に電磁地震計が設置され、ついで昭和37年度にFAXならびにSSBの設置が完成し、近代化された測通報施設とあいまって、同年に電話予報サービスも開始されました。

最近磐城市は新産都市の指定を受け、常磐地区産業都市の中核となるべく、海、陸両面の産業拡張に全市をあげ努力しております。小名浜港は東北の表玄関として1万トン埠頭も完成し、第二次整備計画として昭和36年度から5年計画が進められ、1万トン2バース、1万5千トン1バース、5千トン1バース、千トン3バースを作る計画で、現在まで当所のまん前に5千トン石炭埠頭が完成し、その他日に夜をついでの工事中となっていて実に目まぐるしく沿岸様相が変わっていきます。石炭専用埠

頭、石油配分基地の完成、道路の拡張、大工場の誘置と、着々産業都市としての基盤が完成するにつれ、原材料を満載した1万トン級貨物、貨客船も続々入港し、市全体が国際色豊かに港小名浜として活気にあふれています。前述の状況から、気象照会、その他調査資料提供等の依頼も激増し、職員は汗だくの態で、当所の存在は絶対的なものになっています。

磐城行進曲

1. あなた丸ビル 街の角
わたしゃ 港の電話口
デイトうれしや 小名浜波止場
チョイトチョイト快速津急で
上野駅から 花の磐城へ一走り
2. 浜じゃ市場のせりの声
沖じゃ入船 ドラの音
仲をとりもつ 工場の煙
末は 末はどこまでのびるやら
昨日見たのに 今日もまた見ておどろいた
(大和田正寅記)



小名浜港全景、東の崎より西方を望む